

# ツシマヤマネコって どんな生き物？

日本に生息する野生のネコ科動物は、ツシマヤマネコと、沖縄県の西表島にいるイリオモテヤマネコだけで、ツシマヤマネコは、日本では長崎県の対馬だけに生息するネコ科の野生動物です。アムール川流域から、中国、インドネシア、インドまで広く分布するベンガルヤマネコという野生ネコの亜種です。10万年前に当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられています。

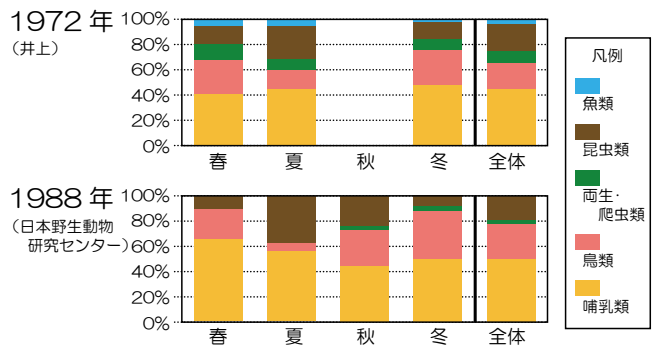
## 外見的特徴

イエネコに似ていますが、体は一回り大きく、約60cm、しっぽは25cmくらい、体重約4kgで、耳は小さく先が丸くなっています。体毛は不明瞭なトラ毛で、背中には淡黄色の斑紋があります。



## 食べ物

ツシマヤマネコは完全肉食です。糞の分析結果を見ると、年間を通じて6～8割がネズミやモグラなどを食べており、残りは、例えば、春や秋の渡り鳥の季節は鳥を、田んぼに水を張った時期はカエルを食べるといのように、季節や生息環境に応じて、様々なものを食べています。時々、イネ科の植物を食べますが、これは消化を助けるための行為だと考えられています。



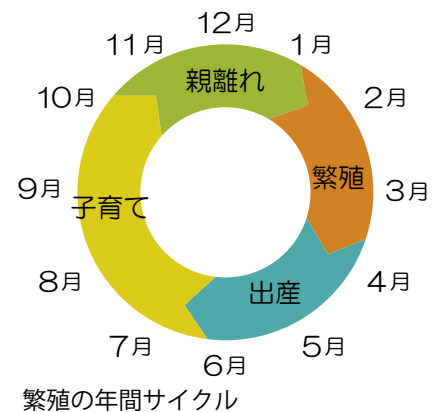
糞分析によるツシマヤマネコの食性

(井上朋子 (1972) : ツシマヤマネコの糞内容物から見た食性、哺乳動物学雑誌 55 (5) より作成、日本野生動物研究センター、1988)

## 繁殖

ツシマヤマネコは、2～3月に交尾をし、4～6月に1～2頭、多いときで3頭の仔ネコを生むと考えられています。

子育ては、メスのみで行い、仔ネコは生後約半年経った秋頃に親離れすると考えられています。



### Column1

## ツシマヤマネコを学べる施設

ツシマヤマネコの調査研究・普及啓発の拠点として、環境省では上県町佐護に対馬野生生物保護センターを設置しています。また、厳原町の鮎もどし自然公園内にツシマヤマネコ野生順化施設（平成26年度完成）を整備しています。

### 対馬野生生物保護センター

対馬野生生物保護センターは、平成9年に開設した、対馬の希少野生生物保護の拠点となる、環境省が運営する施設です。ツシマヤマネコをはじめとする野生生物の生態やその現状についての解説、野生生物保護への理解を深めていただくための普及啓発活動や希少野生生物の保護事業などを実施しています。

住所：対馬市上県町佐護棹崎公園

TEL：0920-84-5577

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

年未年始

開館時間：10：00～16：30（入館は16：00まで）

HP：<http://kyushu.env.go.jp/twcc/>



対馬野生生物保護センターの外観と展示

## どんなところに生息しているの？

ツシマヤマネコは、標高が200m以下と低い地域の落葉広葉樹林や草地をよく利用し、様々な環境が複雑に入り組んだ林縁部や小さな谷（沢）を好むと考えられ、急傾斜地を避ける傾向がみられます。また、繁殖活動や餌資源量の変化によって、オス・メスともに行動圏を拡大させることや、山地部から低地部までを含む行動圏を持つことなどが明らかになっています。

### ①森林

生活の大半を森林内で過ごしていると考えられます。人里近くの森にいることも多く、また糞による情報からは、木庭道、磯道と呼ばれる、古くから使われてきた山中の作業道を移動に使用することもあるようです。

### ②水辺・湿地

対馬には、海岸近くの谷地にヨシ・ガマに被われた湿地が多く見られ、ツシマヤマネコの餌となる動物の生息地になっています。リアス海岸のため、対馬には多くの河川がありますが、その谷間は生物が比較的多様であり、ツシマヤマネコの生息にとっても重要だと考えられています。

### ③農地

ツシマヤマネコは、かつて田んぼで作業している際によく目撃されたことから、地元のある地域では「田ネコ」と呼ぶこともあったようです。農地周辺にはカヤ場があることも多く、そこに生息するネズミなどの小動物を捕らえて食物にしていることも考えられます。



森林



水辺



農地

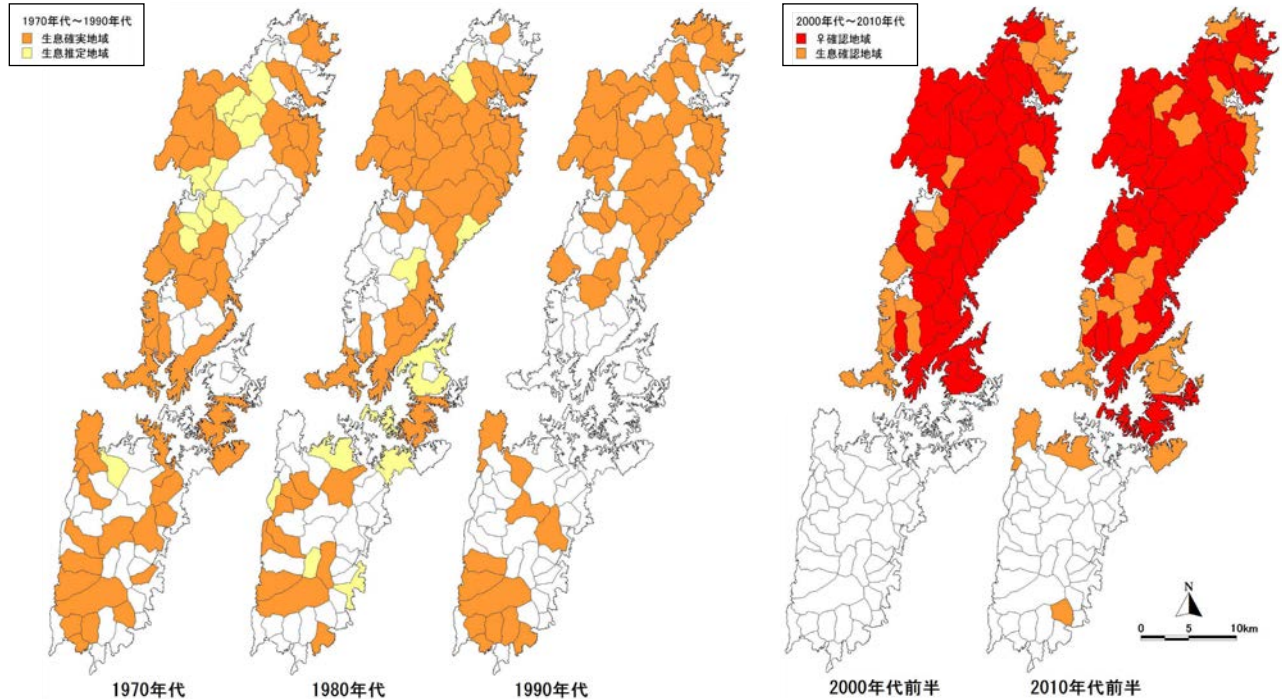


ツシマヤマネコの生息密度が高いとされている志多留から田ノ内

## どこにどれくらい生息しているの？

1960年代までは対馬全域に生息していましたが、2000年代の調査では下島での生息が確認されませんでした。その後2010年代前半の結果では下島でもわずかに生息が確認されています。

また、2010年代の推定生息頭数（痕跡調査の結果から定住個体の生息数を推定したもの）は約70頭又は100頭となっており、依然として絶滅が危惧される状況です。



※第三次調査以前は性別の区別を行っていない。

※「生息確実地域」：交通事故、捕獲、痕跡等により確実な情報が得られた地域

※「生息推定地域」：聞き取りにより生息が推定された地域

(出典：H24年度ツシマヤマネコ生息数等推定調査業務報告書 - ツシマヤマネコ第四次生息状況調査結果 -)

## なぜ減少しているの？

### ①ヤマネコにとって棲みやすい（良好な）生息地の減少

道路の整備や河川改修等による生息地の分断や、管理されずに放置された森林の増加によりツシマヤマネコの良好な生息環境が減少しています。また、近年はシカやイノシシの影響により植生が衰退し、ヤマネコの餌動物の減少が心配されています。

### ②交通事故

これまでに81件の交通事故が確認されており、うち72頭のヤマネコが死亡しています。(平成26年12月15日時点) 交通事故では、健康な個体や若い個体も死亡してしまうため、ヤマネコの保護上の影響は重大です。

### ③イエネコとの競合

FIV（ネコ免疫不全ウイルス）などイエネコと共通の感染症にヤマネコも感染することが分かっています。また、ノラネコとの闘争で死亡するヤマネコも確認されています。

### ④ワナにかかる

トラバサミなどのわなにかかり負傷・死亡したヤマネコがこれまでに10頭確認されています。(平成26年12月15日時点)

### ⑤イヌに咬まれる

野生化したノイヌ、放し飼いのイヌ等に襲われ、これまでに6頭のヤマネコの死亡が確認されています。(平成26年12月15日時点)